

< 第 3 5 回 ほほえみの会 >

初参加の方を含め 10 人が参加しました。

これから少子化を迎えようという時代に日本一を誇る「がんセンター」に小児科がないのはおかしい。

小児ガンにかかった子どもは治癒したあとも様々な病気が出る事が多く継続してみてもらう必要がある。そのためにも小児科(こども病院)だけだなく様々な科が総合的に必要となる。

骨髄移植で無菌室に入る子供と親の精神的プレッシャーは体験したものでないとわからない大変なものがある。せめて病院は近くにあっていつでも直ぐに行ける状態であって欲しい。

いま臍帯血を採ろうとしても東部の病院では出来ず、ガンの兄弟がいるために採りたくても採れないという人がまわりに多くいる。

陽子線治療は小児ガンに効果があるというのに何故小児科がないのですか。

県の子どものガンに対する関心の低さに絶望する。

病棟は大人と子どもでは違い、たとえ小児科が単独で設置されなくても小児用の病棟は是非最初から作っておいて欲しい。

小児ガンについてはこども病院で高度医療を目指すというが、とても今のこども病院が満足できる状態ではない。

・20年前に建てられた病院は今の医療の進歩について行けず、骨髄移植治療が当たり前になっている今、無菌室が一つというのは

どうしようもない。タイミングが重要な移植では今までに無菌室が空いていないがために治療が出来ず命を落としている人が多くいる。

・昨年末から病棟内での院内感染が広がっており、既に二人が亡くなっている。遺族は県に対して訴訟も考えていたが、本来の病気以外で何故命を落とさなければならないのか。徹底的に解明して欲しい。

今のところ原因ははっきりしていないが、B1病棟に白血球が減り抵抗力のない血液腫瘍科の患者以外に腎臓や神経科の患者がいるのも問題ではないのか。

県がんセンターは誰のための病院なのか。

国立がんセンターとは性格が違うだろう。国立をしのぐほどの日本一、世界一を目指す事が本当に県民のためになるのだろうか。県のがんセンターは県民が診察を受けやすい事が大事で、ガン研究を極めるところではないのではないか。

国立がんセンターや他の研究機関とのネットワーク化を図ることが出来るのなら県民がかかりやすい、県民本位の病院体制にすべきだ。

病院の名称を「がんセンター」というのは止めて欲しい。

本人や周りに対して病名を伝えておらず、たとえ小児科が出来ても診察には行けない。

こども病院の血液腫瘍科も血液科で良いのではないか。

次会は 5 月 0 日(日) 時からです

ほほえみの会 代表 池田恵一

E